CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.B）の補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　2.6.2 pl07（2.6.2-07）

2　本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl02** から **2.6.2 pl07** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1　Rapid STP：エッジポートにおけるループ検出機能

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

Rapid STP のエッジポートでループを検出した場合に該当ポートをディセーブルにする機能が追加されました。ループ検出によってディセーブルとなったポートは、SHOW STP PORT コマンドの「RSTP Port Role」欄が「Backup (Loopback Disabled)」に、「State」欄が「Discarding」になります。また、同コマンドの表示項目に、ループ検出回数を示すカウンター「Loopback Disabled」が追加されました。

2.2　ENABLE/DISABLE IGMP ALLGROUP コマンド

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

IGMP/IGMP Snooping 使用時、All Group への所属可否をポートごとに変更できるようになりました。デフォルトでは、ルーティングプロトコルパケット (RIP、OSPF など) を受信したスイッチポートは All Group 所属となり、同ポートにはすべてのマルチキャストパケットが出力されますが、この動作が望ましくない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドでポートが All Group 所属にならないよう設定を変更できます。

追加されたコマンドは次の 2 つです。

DISABLE IP IGMP ALLGROUP={port-list|ALL}

指定したスイッチポートが IGMP/IGMP Snooping の All Group 所属になることを禁止する。デフォルトは全ポート許可。

ENABLE IP IGMP ALLGROUP={port-list|ALL}

指定したスイッチポートが IGMP/IGMP Snooping の All Group 所属になることを許可する。デフォルトは全ポート許可。

また、SHOW IP IGMP コマンドと SHOW IGMPSNOOPING コマンドの表示に「Disabled All-groups ports」欄が追加されました。この欄には、All Group への所属が禁止されているポートの一覧が表示されます。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl02** から **2.6.2 pl07** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 VRRP

参照 「コマンドリファレンス」/「VRRP」

本製品がマスターのときにリンクダウンが発生した場合、VRRP の状態を MASTER から INITIAL に戻すことで、再リンクアップ時に ARP パケットが送信されるようにしました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl02** から **2.6.2 pl07** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

4.1 DISABLE LOG OUTPUT コマンドでログ出力先「PERMANENT」を無効にして設定を保存しても、システムを再起動すると「PERMANENT」にログが記録されていましたが、これを修正しました。

4.2 CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しませんでしたが、これを修正しました。

4.3 SNMP の Counter 型変数の値が最大値（4,294,967,295）を超えても 0 に戻りませんでしたが、これを修正しました。

4.4 SFP ポートの JackType（ポート形状を示す変数。MAU MIB）が正しくありませんでしたが、これを修正しました。

4.5 NTP 有効時、システム時刻が不正になることがありましたが、これを修正しました。

4.6 本製品（CPU）宛てのパケットを高レートで受信している場合、ARP、OSPF、RIP などのプロトコルパケットが CPU に転送されず、結果としてこれらのパケットが処理されないことがありましたが、これを修正しました。

4.7 L3 テーブルへのエントリー追加・削除時にメモリーリークの可能性がありましたが、これを修正しました。

4.8 NetBEUI を対象とするプロトコル VLAN 内で NetBEUI の通信ができないことがありましたが、これを修正しました。

4.9 DISABLE STP PORT コマンドに続いて ENABLE STP PORT コマンドを実行した場合、および、STP の動作モードを変更した場合、ARP キャッシュからスタティックエントリーが削除されていましたが、これを修正しました。

4.10 STP が無効なポートの所属 VLAN を変更したときに Topology Change を発生することがありましたが、これを修正しました。

4.11 SET QOS PORT コマンドの FORCEDEFQUEUE パラメーターに YES を指定しても、タグ付きパケットがデフォルトキュー（DEFAULTQUEUE）に割り当てられませんでしたが、これを修正しました。

4.12 IP において、特定アドレス宛ての経路が変更された場合、該当アドレス宛てパケットのルーティングがソフトウェア処理になっていましたが、これを修正しました。

4.13 スタティック経路を RIP で通知するとき、Next Hop フィールドに自インターフェースのアドレスをセットしてしまうことがありましたが、これを修正しました。

4.14 受信した RIP パケットの送信元アドレスが受信インターフェースのネットワークアドレス範囲に収まっていない場合でも、該当パケット内の経路エントリーを経路表に登録していましたが、これを修正しました。

4.15 OSPF において、自分自身が作成したネットワーク LSA を他のルーターから受信しても、該当 LSA のシーケンス番号を増分して再送信しませんでしたが、これを修正しました。

4.16 OSPF において、LS age=3600（MaxAge）の LS Update パケットを送信した後に、LS age が一致しない（3600 でない）LS Ack を受信した場合でも該当経路を削除していましたが、これを修正しました。

4.17 OSPF において、ASBR として動作する本製品に対して、デフォルトルートの AS 外部経路を AS 内に通知するよう設定している場合、RESET OSPF コマンドを実行するとリブートすることがありましたが、これを修正しました。

4.18 BGP-4 において、外部ソースから経路情報を取り込むよう設定している場合（ADD BGP IMPORT）、優先度が最高でない経路まで BGP の経路表に取り込んでいましたが、これを修正しました。

4.19 BGP-4 において、ダウンした経路の取り消しをピアに通知した後、該当経路を BGP の経路表から削除する前に同経路が再びアップしても、その経路をピアに再広告しませんでしたが、これを修正しました。

4.20 BGP-4 において、受信した経路の NEXT_HOP 属性値が自インターフェースのアドレスと一致している場合、該当属性が構文的に正しいにも関わらず、NOTIFICATION（エラー）メッセージを送信していましたが、これを修正しました。

4.21 自インターフェースのアドレスを持つ ARP パケットを受信した場合、これを ARP キャッシュに登録していましたが、このようなパケットを受信した時は ARP キャッシュに登録せず、ログに記録するようにしました。

4.22 スタティック ARP エントリーを登録したポートでケーブルを抜き差しすると、該当アドレス宛てのユニキャストパケットがフラッディングされていましたが、これを修正しました。

4.23 IPv6 において、特定アドレス宛ての経路がスタティック経路から RIPng 経路に変更された場合、該当アドレス宛てパケットのルーティングがソフトウェア処理になっていましたが、これを修正しました。

4.24 RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行しても、FDB から MAC アドレスが削除されないことがありましたが、これを修正しました。

4.25 Neighbour キャッシュに登録されているアドレス宛ての IPv6 パケットが同一 VLAN 内の全ポートにフラッディングされていましたが、これを修正しました。

4.26 スイッチポートがリンクダウンしても、ダイナミック登録された Neighbour が削除されませんでしたが、これを修正しました。

4.27 DVMRP 使用時、タグ付きのマルチキャストパケットを正しくルーティングできませんでしたが、これを修正しました。

4.28 DVMRP モジュールを有効にしたとき、すでに IGMP のグループリストに登録されていたポートが DVMRP の転送表（転送キャッシュ）に登録されませんでしたが、これを修正しました。

4.29 IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがありましたが、これを修正しました。

4.30 224.0.0.X（ルーターパケット以外）宛てのマルチキャストパケットを受信すると、All Group エントリーを作成していましたが、これを修正しました。

4.31 VRRP において、バーチャル IP アドレスを実際に保有している場合（物理インターフェースの IP アドレスとバーチャル IP アドレスが一致している場合）、起動時に同 IP アドレスに対する ARP Request を送信しませんでしたが、これを修正しました。

4.32 VRRP の有効なインターフェースがダウンした状態で設定を保存すると、再起動後、該当インターフェースで VRRP が動作しなくなっていましたが、これを修正しました。

4.33 VRRP 有効時に RESET IP コマンドを実行すると、マスタールーターがパケットを転送しなくなっていましたが、これを修正しました。

4.34 DHCP サーバーの設定において、特定のパラメーターに 40 個以上のアドレスを指定するとリブートすることがありましたが、これを修正しました。

4.35 DHCP サーバー機能使用中に DELETE IP INTERFACE コマンドを実行すると、同コマンドを実行したのとは別の VLAN において、DHCP クライアントが IP アドレスを取得できなくなる場合がありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.6.2 pl07** には、以下の制限事項があります。

5.1 電源ユニットの LED について

参照 「取扱説明書」27 ページ「電源ユニット / ファンモジュール LED」

電源ユニット（PSU）を 2 個装着して冗長構成を組んでいるとき、本製品の起動完了前に電源ケーブルを抜き差しすると、PSU の LED 表示が不正になることがあります。電源を冗長化している場合でも、本製品の起動が完了するまでは電源ケーブルを抜き差ししないでください。

5.2 SET LOADER、LOAD コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

SET LOADER コマンドで HTTPPROXY パラメーターと SERVER パラメーターを同時に指定した場合、SERVER パラメーターの設定が保持されず、以後 LOAD コマンドが正しく動作しないことがあります。HTTP プロキシー経由でファイルをダウンロードするときは、LOAD コマンドで必ず SERVER パラメーターを指定してください。

5.3 ログについて

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

○ スイッチポートのリンクアップ / リンクダウンのログが出力されません。

○ SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。

○ ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。

○ DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）を設定しても、指定した数値以上のメッセージが保存される場合があります。

5.4 トリガーについて

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「トリガー」

CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数（count）、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なることがあります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

5.5 SNMP について

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

○ 電源ユニット（PSU）を 2 個装着している状態で、片方の電源の状態が変化したとき、PSU Status Change Trap ではなく Temperature Trap が送信されます。

○ スイッチポート 49 〜 52 のインターフェース統計情報を正しく取得できません。また、SHOW INTERFACE コマンド（COUNTERS オプション）の表示も正しくありません。SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドでは正しい値が表示されます。

○ ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards（MIB-II）がカウントされます。

5.6 NTP について

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「NTP」

○ NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

○ Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。

5.7 ユーザープライオリティー 6 〜 7 のブロードキャスト転送レートについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

ユーザープライオリティー（802.1p）6 〜 7 を持つブロードキャストパケットの転送レートが 50% 程度しか出ません。

5.8 ポートトランキングについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

○ すべてのトランクポートがリンクダウンしても、トランクポートに登録された MAC アドレスが FDB から削除されません。

○ トランクポートでタグ VLAN を使用している場合、本製品・対向機器ともにフローコントロールが有効な状態でトランクポートのケーブルを抜き差しすると、本製品が PAUSE フレームを送信することがあります。

○ CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。

5.9 IP サブネット VLAN について

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

○ ポートが複数の IP サブネット VLAN に所属している場合、該当ポートでは ARP の解決が正しく行えません。

○ ADD VLAN PORT コマンドで IP サブネット VLAN にポートを追加するとき、SUBNET パラメーターにネットワークアドレスを指定する必要がありますが、実際には指定したネットワークアドレスは意味を持たず、常に「SUBNET=ALL」を指定したのと同様に扱われます。たとえば、次のコマンドを実行した場合、

```
add vlan=A port=1,3 subnet=192.168.1.0
add vlan=A port=2 subnet=192.168.2.0
```

ポート 3 で受信した始点 192.168.2.10 の IP パケットは破棄されると予測できますが、実際には転送されます。上記コマンドは次のように書いたのと同じ意味になるためです。

```
add vlan=A port=1,3 subnet=ALL
add vlan=A port=2 subnet=ALL
```

5.10 プロトコル VLAN、VRRP、STP の 3 機能併用について

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

プロトコル VLAN、VRRP、STP の 3 つの機能を併用したとき、ケーブルの抜き差しによってループが発生する場合があります。

5.11 マルチプル VLAN（Private VLAN）について

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

○ Private VLAN に所属しているポート（アップリンクポート、プライベートポート）は、タグ付きに設定されていても、タグなしパケットを転送します。

○ Private VLAN のアップリンクポートをタグ付きに、プライベートポートをタグなしに設定した後、設定を保存して再起動すると、エラーが発生しプライベートポートが削除されます。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、プライベートポートの設定を追加してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

5.12 スパニングツリープロトコルについて

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

○ ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。

○ STP 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。

○　複数の STP ドメインを設定している構成で、高レートのブロードキャストトラフィックが発生すると、Topology Change が発生しスパニングツリーが不安定になることがあります。

5.13 フォワーディングデータベースについて

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

RESET SWITCH コマンドを実行しても、スイッチポート 49 ～ 52 上に登録された MAC アドレスが FDB から削除されません。

5.14 ハードウェアパケットフィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ハードウェアパケットフィルター」

「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。

5.15 802.1X 認証について

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「802.1X 認証」

○　PIGGYBACK=TRUE の Authenticator ポートにおいて、ある Supplicant を認証した後、PIGGYBACK=FALSE に設定を変更しても、直接認証を受けていないホスト（PIGGYBACK で通信しているホスト）のエントリーが FDB から削除されないため、引き続き通信が許可されます。

○　RESET PORTAUTH PORT MULTIMIB コマンドを使用しても、未認証の Supplicant 情報はリセットされません。

5.16 TRACE コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

5.17 IP 統計情報の表示について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

○　IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

○　ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

○　RESET IP COUNTER=ALL を実行しても、SNMP とマルチキャストのカウンターがクリアされません。これらをクリアするときは、「RESET IP COUNTER=SNMP」、「RESET IP COUNTER=MULTICAST」のようにカウンター種別を個別に指定してください。

5.18 ARP 解決されていない IP アドレス宛てのルーティングパケットについて

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

ARP 解決されていない IP アドレス宛てのルーティングパケットを受信しつづけると、空きメモリーが減少し、コンソールの反応が悪くなることがあります。

5.19 OSPF について

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（OSPF）」

スタブエリアにおいて、隣接関係が確立している状態（Full 状態）でインターフェースのリンクダウン・アップが発生すると、隣接関係を再度確立できなくなります（ExStart 状態で停滞する）。

5.20 BGP-4 について

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4）」

RIP 経路を BGP-4 で配布している場合、RIP 経路のメトリックが 16（無効）になっても、ただちに経路の取り消しをピアに通知しません。該当 RIP 経路がシステムの IP 経路表から削除されたときにはじめて通知します。

5.21 DNS サーバーアドレスの動的取得について

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

5.22 IPv6 の PING について

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」

PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、リブートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。

5.23 IPv6 のハードウェアルーティングについて

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」

IPv6 パケットのハードウェアルーティングを約 1 時間行うと、CPU 負荷が 100% になります。ただし、運用上は特に問題ありません。

5.24 経路 MTU 探索について

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」

経路 MTU 探索が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされないことがあります。

5.25 6to4 トンネルインターフェースの作成について

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「IPv6 インターフェース」

○ ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されます。

○ ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成してもエラーになりません。

5.26 RIPng について

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「経路制御（RIPng）」

RIPng 有効時に、IPv6 のルーティングパケットがフラッディングされます。

5.27 SET IPV6 PREFIX コマンドについて

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「近隣探索」

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、設定保存後に再起動すると正しく機能しなくなります。

5.28 Neighbour キャッシュについて

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「近隣探索」

○ VLAN 内にリンクアップしているポートが 2 つ以上ある場合、IPv6 機器を同一 VLAN 内の別のポートに移動しても Neighbour キャッシュが更新されないため、該当 IPv6 機器と他の機器との間で通信が正しく行えなくなることがあります。

○ Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。

○ RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour も削除されます。

○ SET IPV6 ND コマンドにて MTU を変更した場合、再度デフォルトの 0 に戻すことができません。その場合には、EDIT コマンドで設定ファイルを編集し、SET IPV6 ND のコマンド行を削除してください。

5.29 DVMRP について

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「DVMRP」

○ DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

○ VLAN が 1 つしか存在しない状態で DVMRP を有効にすると、不正なパケットを送信することがあります。

5.30 IGMP について

参照 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

○ IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがあります。

○ Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。

5.31 DHCP サーバー機能について

参照 「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能の使用中に本製品のソフトウェアをバージョンアップすると、バージョンアップ前に IP アドレス等を割り当てたクライアントからのリース延長要求に正しく応答できない場合があります。ただし、運用上は特に問題ありません。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6（Rev.B）」の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティーを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

6.3 ポートトランキングについて

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

○ ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

○ ポートトランキングは下記の機能と併用できません。

- スパニングツリープロトコル
- DVMRP
- IGMP/IGMP Snooping
- MLD Snooping

6.4　ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「QoS」

送信ポートの帯域制限機能（EGRESSLIMIT）と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング（WRR）は併用できません。

6.5　ダブルタグ VLAN（Nested VLAN）について

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

ダブルタグ VLAN（Nested VLAN）は下記の機能と併用できません。

- IP サブネット VLAN
- ハードウェアパケットフィルターの L3 以上の条件パラメーター（L2 は使用可）
- IGMP Snooping

6.6　マルチプル VLAN（Private VLAN）について

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

マルチプル VLAN（Private VLAN）のプライベートポートでは、DHCP、SNMP、Telnet など、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

6.7　フォワーディングデータベースについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

6.8　クラシファイアの割り当てについて

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「クラシファイア」

1 つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。

6.9　ポリシーベース QoS の設定例について

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「QoS」

コマンドリファレンスの「ポリシーベース QoS の基本設定」/「設定手順例」に「通常のパケット」と「IPv6 ルーティングパケット」の 2 つの設定例が記載されていますが、これらの設定で帯域制限を行うには、以下の設定を追加する必要があります。

```
set qos trafficclass=1-3 dropbwclass3=yes
```

「通常のパケット」では手順 3 の後に、「IPv6 ルーティングパケット」では手順 5 の後に上記コマンドを追加してください。

6.10 ICMP メッセージについて

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

6.11 BGP-4 について

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4）」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAX-PREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

6.12 DVMRP について

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「DVMRP」

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応しておりません。

6.13 VRRP

参照「コマンドリファレンス」/「VRRP」

VRRP とプロキシー ARP は併用できません。

6.14 DHCP サーバー機能について

参照「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能とマルチプル VLAN（Private VLAN）は併用できません。

7　未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

○　以下のキーワードを含む全コマンド

ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

APPLETALK, CLNS, DHCP6, FIREWALL, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPSEC, IPX, ISAKMP, L2TP, LDAP, LOADBALANCER, LB, PIM, PIM6, PKI, PPP, PPPOE, RSVP, SA, SSL, STAR, TACACS, TACPLUS, TEST

○　以下のコマンド（パラメーター）

COPY
DUMP
MODIFY
START/STOP/SET PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=address] [QUEUEPOINTERS]]
MAIL
DELETE/SET/SHOW MAIL
ENABLE/DISABLE MAIL DEBUG
LOAD [METHOD={LDAP¦NONE}]
TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE={ALL¦UPDATE}
PURGE PING TOTALLY

ADD SWITCH HWFILTER ACTION={COPY¦COPY,DISCARD}
ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO]
[SPEED={10MHAUTO¦10MFAUTO¦100MHAUTO¦100MFAUTO¦
1000MHAUTO¦1000MFAUTO¦ 1000MHALF¦ 1000MFULL}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
CREATE/DESTROY/SET/SHOW QOS RED
ENABLE/DISABLE QOS DEBUG

ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER=0..299
ADD/DELETE/SET/SHOW IP ROUTE FILTER
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER
ADD/SET/SHOW IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER]

SHOW IP CACHE
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE/SET OSPF NEIGHBOUR

ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP¦DHCPTEMP¦PD} [APPINT] [FILTER] [HINT] [KEY]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD/DELETE/SET/SHOW IPV6 FILTER
SET IPV6 PREFIX
SHOW IPV6 MULTICAST

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

CREATE ENCO KEY TYPE={DES¦3DES2KEY¦3DESINNER¦GENERAL} [MODULE] [{RANDOM¦VALUE}] [FORMAT={HEX¦NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES¦HMAC¦JOBPROCCESSING¦PRED¦STAC¦USER¦UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

8　コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.6 (J613-M0021-12 Rev.B)」は弊社 Web サイトに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0021-12 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

http://www.allied-telesis.co.jp/

アライドテレシス株式会社
PN J613-M0021-11 Rev.C 041028